

地域の災害と博物館



このたびの台風 19 号の被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

これまで飯能市域でも様々な災害があったことが記録や石碑などからわかっています。被害の実態がわかる最も大きなものは、明治 43(1910)年 8 月 10 日から 11 日にかけての豪雨による土砂災害・水害で、市域では死者・行方不明者 45 人の犠牲者が出ています(「明治四十三年の大水」と呼ばれます)。今回の台風 19 号は 1 日の雨量ではその時を上回り(名栗で 10 月 11 日午後 9 時からの 24 時間で 500 mm を超える)、幸い亡くなった方はいませんでしたが、家屋の浸水や道路の損壊、斜面崩壊など市内でも大きな被害がありました。今回の大雨は、被害の大きさ、そしてそれが社会に与えたインパク

トの点からも、その教訓を伝承すべき災害として記憶され、記録されていくべきものといえるでしょう。

当館では、平成 25 年度に災害史の特別展「飯能方面湖水の如し」を開催して以降、主に
出前講座を通して地域の災害について市民のみなさまにお伝えしてきました。このような時だからこそ博物館にしかできないこと-過去の災害を繙き、現代の災害を記録していくことで市民のみなさまの防災意識を高めていただくこと-、を着実に進め社会に貢献していきたいと考えています(尾崎)。



明治 43 年に土石流が発生した坂石町分の溪流は少し土砂が溜まっている程度だった

